教育開発機構

NEWS LETTER 2022.Aug.vol.13

FD企画 2022年度 第1回「自校教育」

都市大の自校教育は、学生・教職員一人一人が、都市大の歴史やそこにある
思考や想いとの接点をみつけ、自らの学ぶ意欲を高める好機とすることを目指しています。

100周年に向けて、今、自校教育の意義

温故知新といいますが、自校教育においては、懐古だけでは「新しく知る」ことにはならないでしょう。歴史上の事実を各自が多様に解釈し、大らかに意見を共有するプロセスが必要です。東京都市大学には、武蔵工業大学・東横女子短期大学に始まり、新しい学部も設立される今日に至るまで、教育・研究の膨大な取り組みがあります。それを長期的な視座のなかで振り返る機会はまだ少ないと言えます。教職員と学生たちによる、教育的な試行錯誤や挑戦、使命感をもった研究活動・社会貢献など、百周年に向けて改めて振り返り共に語り合うことで、新しい発見を都市大の文化として育てていくことを願っています。

副学長・教育開発機構長　大上 浩

講演

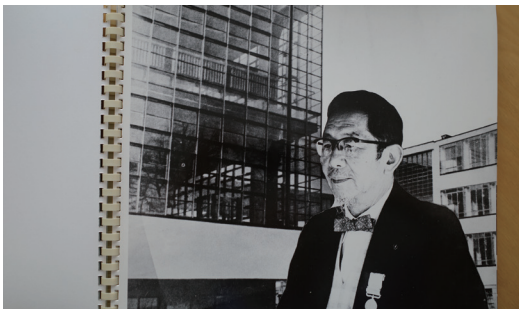
武蔵工業大学から東京都市大学へ
― キャンパスの変遷：蔵田周忠を中心として ―

共通教育部 人社部門
岡山 理香

今日の東京都市大学世田谷キャンパスは、武蔵高等工科学校が大岡山から移転してきたところから始まります。その後、武蔵工業大学となり、その名誉教授第一号であった蔵田周忠（くらた ちかただ）先生が最初のキャンパス計画を立てられました。そして「学問の場」としての大学にふさわしい正門を設計、厳しい資材統制の中で工夫され、白い列柱が象徴的なデザインでした。

大学の歴史を辿れる一つのよすがとしてこの写真を掲げておきたいと思います。

武蔵工業大学正門（1950年代）東京都市大学世田谷図書館蔵



バウハウス校舎と蔵田周忠（1895-1966）
『武蔵工業大学 卒業アルバム（1962年）』個人蔵

報告

2022年度 第1回 自校教育「キャンパス計画の変遷から考える東京都市大」

2021年度は、機械工学科 白木尚人先生による都市大の歴史に関する講演と、知能情報工学科 芝正孝先生主催の社会で活躍する卒業生の講演会を実施しました。2022年度は、草創期に注目すべく、共通教育部 岡山理香先生の講演と、それに続くトークセッションとして、建築学科の堀場弘先生をパネリストに迎え、東京都市大の過去から未来を、キャンパスをキーワードに参加者の皆さんとともに語り合いました。新築の7号館にて7月1日に実施し、学長や事務局長をはじめ、教職員約50名の参加がありました。

岡山先生の講演では、1932年に本学着任の蔵田周忠先生が担当されたキャンパス計画について、それ以降のキャンパスの変化も含めお話を伺いました。現在も世界のデザイン・建築界に影響を与えているバウハウスの日本における紹介者として知られる蔵田先生が、正門に込めた想いや視座を知ることができました。

トークセッションでは、堀場先生より、新7号館の設計に関して、「受け継がれるものと変わるもの」と題して、その機能・性能面に始まり、世田谷キャンパス全体の中での位置や役割についてお話しいただき、近隣地域との融合への意識など、設計に込めた想いを知ることができました。

意見交換では、お二人の話に刺激されフロアが大いに盛り上がりました。小学校の設計はじめ教育機関の設計を手がけたことは意外と知られていない事実で、教え子である建築家・松村正恒氏はじめとして、現在までの一つの系譜として読み取れるのではないかという示唆がありました。また、現キャンパスの話から、学内にだれでも使用できるピアノを設置してはどうか、原子力研究所の文化資産の話などの様々なアイデアが出され、どんな学生を育てていきたいか、に想いを馳せる時間となりました。蔵田先生が手仕事に敬意を抱き、日本の生活に即した設計を追求された想いを知った今回に続き、第2回も検討しています。

建築都市デザイン学部建築学科　堀場弘先生

新7号館

自校教育FD企画意図 「都市大のあゆみから、ここでの学びと現代社会とのつながりを考える」

FD推進センターでは、自校教育を本学の教育活動の柱の一つとしてとらえ、FDとして企画しています。

自校教育というと愛校精神や出身大学といった語句が連想されがちですが、このFDでは、歴史やゆかりを豊かな文化資産として享受しつつ、しかしあくまで現在の視点に基づき、学生と社会を橋渡しするための活動として考えます。なぜ大学で学ぶのか、なぜ東京都市大学なのかという問いに、直接・間接問わず、教室の内外も関係なく、様々な方法で応えていくことは、学生の知的好奇心の拠り所を定め、社会へ飛び出すモティベーションを高めていくために必要な教育活動です。自校に関する知識を知り、それを個々人が自由に語る雰囲気は、大学教育にとっての基本環境と言えるでしょう。また、様々な来歴でここに集った私たちが、自分と都市大のつながりを考えることは、仕事に自分なりの愛着や意義を見出し、時間に追われる毎日に少しばかりの新鮮さをもたらすライフハックとも言えるかもしれません。

FD推進センター 自校教育企画担当　杉本 裕代

FD企画 2021年度 EFR賞受賞者の授業実践の挑戦や工夫に学び合う

教育開発機構では、授業設計・改善支援を目的とした小規模 学び合いFDの一環として「これからのWithコロナ時代に残したい、教育手法・場づくり」をテーマに、2021年度 都市大教育フロントランナー賞受賞者企画を実施しました。3回の実施で、延べ102名が参加し、授業づくりに関して、毎回、活発な意見交換が行われました。その概要をお届けします。
（各回の収録動画および資料は、WebClassのFD推進センターのコースにて公開中です）

第1回　2022年5月25日

●**授業評価優秀賞／FD貢献優秀賞　「学生を伸ばし到達目標に導く形成的評価」**
高橋哲男先生（共通教育部 人文・社会科学系）2年生 数学教育法（2）

●**FD貢献優秀賞「複数カメラを有効に教育活用した授業」**
大塚習平先生（人間科学部 児童学科）1年生 保育内容の理解と方法（造形表現）

高橋先生は、学びのポートフォリオ等を通じて授業の各段階で習熟度を把握する「形成的評価」を実施、教育法の理論をふまえた適切な学びの評価を基盤とした授業デザインは、他分野の授業にも大変参考になるものでした。大塚先生の授業紹介は、複数カメラの臨場感にとどまらず、実験・実習を含むあらゆる授業で発生する「抽象概念と具体的な作業が交差する場面」において、学びを促す環境づくりのエッセンスとは何か、新しい発想で考える好機となりました。お二人の授業に共通していた「学生を伸ばす教育評価のあり方」や、「学びや教えの本質的な要素」について、参加者との意見交換も交えて話が深まりました。

第2回　2022年6月6日

●ICT活用優秀賞　「ICT活用によるインタラクティブな対話型授業」

横山草介先生（人間科学部 児童学科）1年生 教育学概論

●科目デザイン優秀賞「学習科学に基づくシートを活用した科目設計」

関口和真先生（理工学部 機械システム学科）3年生 制御理論

横山先生は、多人数・講義型の授業において対面／オンラインのいずれにおいても実施可能なアクティブラーニングの一方法として、学生の思考を把握しながらフィードバックをかけるため「Slido」や「WebClass」を活用、色々な授業で実現可能な「学びを深める対話」をご紹介頂きました。関口先生は、科目全体を体系的かつ効果的に実施する手法として、学習科学で推奨されている「クラスデザインシート」を取り入れ、授業の設計から実施、そして改善までに活用している実際の経験談を話していただきました。いずれも、勘や経験に頼るのみならず、教育理論や学習科学の知見をベースにご自身の授業の目的を実現するための取り組みが大いに参考になりました。

第3回　2022年6月21日

●授業デザイン優秀賞　「ICTツール活用による海外連携で国際の観点からの学びを実現」

沖浦文彦先生、林和眞先生、齋藤圭先生（都市生活学部 都市生活学科）3年生 プロジェクト演習

コロナ禍で学生のあらゆる体験活動に制限がかかる中、「3国の大学の混成チーム」がオンライン上で課題解決を行うという活動に、「教育的意図をもったリーダーの指名」や「成果物を仕上げる学びのプロセス」などをきめ細かく設計して、動機付けも含めて学生の学び（知識、スキル、姿勢）を充実させるオンライン国際ワークショップ授業の紹介でした。フロアとの意見交換も盛り上がり、本学の国際教育の今後につながるFDとなりました。

2022年度の 活動方針

教育開発室

- 2022年度SD PBL(3)の立ち上げを支援します
- 2023年度ウォーミングアップセミナーの立ち上げを支援します

教育アセスメント室

- 「都市大力」の評価枠組みを整備します
- 都市大力をTCU FORCE に反映します
- 成績保留制度の改善を図ります

数理データサイエンス教育センター

- 数理・DSL科目についてリテラシーレベルの質の向上を目指して、興味関心を引く講義内容・資料のアップデートを図ります
- 数理・DSL 科目の教育効果向上のためSA/TAを充実させる工夫を検討、推進します

ICT戦略室

- 本学に適したLearning Analyticsによる学習支援を推進します
- Turnitin（文献引用確認）、MATLABなどの活用支援を拡充します
- 予習・復習（Zoom授業収録、BookRollで可視化）を拡充します

FD推進センター

- 授業改善を支援するためのFDの推進を図ります
- ティーチングポートフォリオによる教育活動の充実を支援します
- 学生、常勤・非常勤の教職員、卒業生や企業の方々と協働します

シリーズ 知識集約型社会を支える人材育成事業

理工学部長・「ひらめき・こと・もの・ひと」づくり運営委員会　委員長　岩尾 徹

専用サイト ▶ https://hirameki.tcu.ac.jp

評価について

本事業で構築する教育プログラムの卒業認定・学位授与の方針は、全学や理工学部の3ポリシーおよび「公正・誠実な人格と自己研鑽力をもち、都市に集約されるような複合的課題に取り組めるとともに、多種多様なボーダーを超えて新たな価値を見出すことで持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成する」という本学の教育理念に基づくものです。加えて、産業界に多くの人材を輩出してきた伝統や都市研究の都市大という特長を鑑みて、具体的な学修目標を立てました。

アセスメントプランとしては、全学DPに基づく評価枠組み「都市大力」と、当プログラムで育てたい能力をマトリックス（表1）にまとめ、学修成果を定量的および定性的に評価する計画です。それにより、当プログラムの各科目における評価活動を、年次進行の過程でどのように連携させて学生を成長させていくかについて戦略を練っています。

具体的には、毎回の授業において着実に能力を育成できるよう、授業デザインの中に評価活動を組み込むべく、ルーブリックなどの評価ツールや達成度の可視化方法の開発に着手しています。特に「創造力」や「変革力」を、どう育てどう評価するかについて検討を重ねています。また、科目ごとの授業デザインのみならず教育課程全体の編成という視点からも、カリキュラムマップやツリーによる履修モデルの試作を通して、能力育成が適切に図られるように、各科目の配置、連携、履修要件などの検討を進めています。

表1　「都市大力」と「当プログラムで育成したい能力」との関係

全学ディプロマポリシー「都市大力」と 5つの力との相関（案）				都市大力	公正、自由、自治 ・持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究 ・ボーダーを超えて、学生と教職員が共に考え、学び、行動することで社会に貢献できる人材を育てる。 ・公正・誠実さと自己研鑽力をもち、「都市」に集約されるような複合的課題に取り組むことができ、多種多様なボーダーを超えて新たな価値を見出すことで持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成する。														
					自ら学ぶ力			課題を探究する力			ボーダーを超える力			協働する力			実践する力		
5つの力					自立の力			探究と問いの力			価値創造の力			協働の力			智と実践の力		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2	5-3
革新的なイノベーションをもたらすソリューションを提案する人材	文理横断・学修の幅を広げる 42単位	H ひらめき	H-A 創造と社会変革		H-1		H-1	H-1					H-1		H-1		H-1		
		K こと	K-A UE2DX		K-2	K-1	K-2		K-2	K-1	K-2	K-1	K-1		K-1		K-2	K-1	
		D AI・ビッグデータ・数理データサイエンス	D-A 分析と予測			D-1		D-1			D-1			D-1					D-1
幅広い教養と深い専門性を両立した人材	分野融合（もの×くらし） 56単位	M もの	M-A, L-A 専門性を活かした理論と実践		M-1			M-1				M-1			M-1			M-1	
		L くらし			L-1			L-1				L-1			L-1			L-1	
	グローバル・幅広い教養と統合的な学び 26単位	HT ひと	HT-A 主体性を活かした挑戦と未来志向		HT-4			HT-1					HT-4	HT-4	HT-1	HT-4	HT-1		HT-3
									HT-2	HT-3	HT-3				HT-2				

発行
東京都市大学 教育開発機構
〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL：03-5707-0104（代） FAX：03-5707-2222 E-mail：efsg@tcu.ac.jp
お問い合わせ 担当事務局：教学支援課